

町民が語る「あの日の寄居」

終戦から10年後の昭和30年（1955）に寄居町は生まれた。合併70周年の本年は、戦後80年の節目でもある。「あの日」子どもだった自分が見た、80年前の鮮明な記憶。平和を願う町民の声を取材した。



▲坂本さんの義父の出征時、「武運長久」を願う寄せ書きが書かれた日の丸の旗（坂本マサ子さん提供）



▲三ヶ山地区に残る「陸軍航空本廠 寄居出張所 弾薬倉庫跡」。戦時中、東武東上線・男衾駅から軍用線が引かれ、現在の上福岡で造られた弾薬が貨物列車で輸送され、ここに保管されていた。

戦後80年・鮮明な記憶 「弾薬庫が爆発した日」

坂本マサ子（市街地）

終戦の年、私は小学校3年生でした。三ヶ山には日本軍の弾薬庫があって、敗戦後、アメリカ軍が入ってきて片づけを始めた。

翌年の1月10日、学校から帰るときに煙が上がってごみが降ってきました。私は家に急ぎました。母は私に逃げるように言って、4歳の妹をおぶわせて敷布団を被せました。そして小1の妹の手を引いて国道まで来たときに「ズシン」とすごい衝撃がしました。弾薬庫が爆発したのです。戦争が終わったのに、まるで空襲みたいでした。私は敷布団を被っていたから、今こうして生きています。小1の妹は「ここにいたら死んじゃう」と一人で走っていき、私も「さらに遠くへ行かなくては」と思って下郷へと逃げました。本当に怖かった。



そのときは死んだ人はいなかったけれど、数日後、灰の片づけをしていた人が不発弾の爆発で亡くなりました。さらに後日、川で遊んでいた子どもが不発弾の爆発で死んでしまうということもありました。

今思うと、軍用地が寄居にあったから、こんな怖い目にあっただのどと思います。戦争は絶対ダメです。

EDITORS NOTE, 117

「真剣議論」根底にある願い

今号では全編を通して、子どもたちへの支援についての議論を記事に。時代の変革とともに、子どもたちを取り巻く社会の価値基準も変わり、その選択肢も多様化している。統合小問題等、正しい選択は何なのか、逡巡しての「真剣議論」の根底には、どの時代にも共通する彼らの未来が幸福であることへの願いがある。戦後80周年、当たり前ではない平和を語り継ぐこと、ここに私たち大人の大切な使命があることを再確認したい。（鈴木）

議会広報広聴特別委員会

- | | | | |
|------|------|----|------------|
| 委員長 | 鈴木詠子 | 委員 | 里見夕子・浅見玲子 |
| 副委員長 | 本間政道 | | 吉田林藏・津久井大雄 |
| | | | 久保鷹矢・権田孝史 |

発行責任者（議長）吉澤康広



KOE METER 議会が聴いた皆さんの声

今号は18人が登場



次回定例会は
9月2日(火)開会予定

（日程は変更になる場合があります）
請願・陳情はいつでも受け付けています。
9月定例会報告分は8月12日(火)午後5時迄に議会事務局へご提出ください。
※郵送可・必着

お元気ですか

寄居議会です

No.117

2025年(令和7年)8月1日発行

発行：寄居町議会(議長 吉澤康広)
編集：議会広報広聴特別委員会
TEL 048-581-9995
FAX 048-581-5100
〒369-1292 埼玉県大里郡寄居町大字寄居1-80番地1